■交通アクセス



- ●大阪モノレール彩都線:『阪大病院前』下車
- ●JR東海道本線(京都線):JR茨木駅から近鉄バス[阪大本部前行き]で『**阪大医学部病院前**』下車
- ●阪急電鉄京都線:阪急茨木市駅から近鉄バス[阪大本部前行き]で『**阪大医学部病院前**』下車
- ●Osaka Metro御堂筋線:北大阪急行千里中央駅から阪急バス[阪大本部前行き]で『阪大医学部病院前』下車





大阪大学医学部附属病院 要覧













Live Locally, Grow Globally

2024















Contents [目次]

理念・基本方針・患者さんの権利・患者さんの責務	02
高度急性期医療と先進医療の開発・研究を総合力と優れた安全の下で	03
病院長からのご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	·····0 4
沿革	0 5
機構/職種別職員数/職員 資料 診療科別外来患者数/病棟フロア別入院患者数	09
資料 臨床検査件数/手術件数/画像検査患者数/輸血検査件数/処方枚数/ 病理業務件数/リハビリテーション実施単位数/地域別入院患者数/ 治験件数/移植件数/院内がん登録件数/入院、外来抗がん剤調製件数/ ドクターヘリ出動件数/分娩件数/血液浄化療法施行件数	11
医療機関の承認・指定状況等	····· 13
経理状況/未来医療の推進	····· 14
構内建物配置図/階別配置図・病床数	15
トピックス 救急・集中治療部門(救命救急科・集中治療科)の新設 プレコン(妊娠前相談)外来の開設/術後疼痛管理チームが始動	17
大阪大学医学部附属病院へのご寄附のお願い	18



●病院機能評価認定証 2022年1月に (公財)日本医療機能評価機構から 最新基準(3rdG:Ver.2.0)に 認定されました。



●臨床研究中核病院承認通知書 2015年8月に厚生労働省から 再指定を受けました。



●ISO15189認定証 2015年9月に (公財)日本適合性認定協会から 認定承認されました。



●がんゲノム医療中核拠点病院指定書 2023年3月に厚生労働省から 再指定を受けました。



●国際認証AAHRPP取得

2022年12月に日本の病院で初めて AAHRPP (The Association for the Accreditation of Human Research Protection Programs, Inc.®)から 認証を得ました。



◆大阪府難病診療連携拠点病院指定書 2018年11月に 大阪府から指定を受けました。



●外国人患者受入れ医療機関認定制度(JMIP)認証書 2022年3月に(一財)日本医療教育財団から 再認されました。

念

大阪大学医学部附属病院は、 良質な医療を提供すると共に、 医療人の育成と医療の発展に貢献する。

「医の先進性を志して150年余り〕

1869(明治2)年大阪府が大福寺に仮病院・医学校を設立した際、緒方 洪庵の嗣子緒方惟準、義弟郁蔵、養子拙斎らがこれに参加。この医学 校は、後に幾多の変遷を経て現在の大阪大学医学部となった。



阪大病院の理念は緒方洪庵の思想を受け継いでいる。

基本方針

- ■患者本位の安心・安全な全人的医療の提供
- ■高度な医療の実践と未来医療の開発
- ■社会・地域医療への貢献
- ■豊かな人間性を持った優れた医療人の育成

患者さんの権利

- ■人として尊重された医療を受けることができます。
- ■安全で質の高い医療を受けることができます。
- ■充分な説明と情報提供を受けることができます。
- ■他の医療機関の医師に意見(セカンドオピニオン)を聞くことができます。
- ■自由な意思によって治療を選ぶことができます。
- ■個人の情報は保護されています。

患者さんの責務

- ■本院の規則を遵守し、迷惑行為は慎んでください。
- ■ご自身の健康状態について、できる限り正確にお話しください。
- ■適切な治療方針を決めるために、ご自身の意思や意見を伝えてください。
- ■治療方針をご理解のうえ、ご協力ください。
- ■ご加入の保険を正確に伝え、受けた医療に対する医療費をお支払いください。



●ISO13485認定証

2023年6月に日本の病院で初めて英国規格協会(BSI)から 認証を得ました。※材料部において取得



高度急性期医療と先進医療の 開発・研究を総合力と優れた安全の下で

【教育】豊かな人間性を持った優れた医療人の育成

- ●臨床と研究能力を兼ね備えた医師の養成。
- 特定行為研修の推進。
- 医療専門職の育成を図るとともに、職員の医療安全能力の向上に資するための実践的教育パッケージの開発を継続し活用する。



【研究】未来医療の開発・実践

- 社会との接点である附属病院の機能を活かし、先進的な医療の開発・導入を図る。
- ●臨床研究法等、臨床研究に関わる規制への対応。
- A I ホスピタル事業の推進。
- ●情報信託機能を用いた医療データ利活用実証事業の推進。

【診療】高度な医療の提供

- ●病院長のリーダーシップのもと、院内の診療体制の見直しを図るとともに、業務の効率化を促進する。
- ●国及び地方公共団体等との連携強化。
- 高度機能病院として必要な診療環境を確保するため、施設の整備・改修を図るとともに、医療機器の更新・充実を図る。
- ●患者サービスの更なる向上を図り、患者の立場に立った安心・安全な医療の提供を推進する。
- ●全臓器移植を行っている国内で2施設しかない施設の1つであり、高度・先進的な臓器移植医療を今後も積極的に展開するとと もに、小児も含めた臓器提供体制を十分に整備して責任ある臓器移植・臓器提供病院として本邦の移植医療の規範となる。
- がんゲノム医療の推進。

【地域医療への貢献】地域医療機関とのネットワーク

●各センター等による地域医療への貢献を図る。

【国際化】診療と教育のグローバル化

●国際医療センターにおける外国人患者の診療体制並びに外国人医療従事者等の研修受入れ体制(インバウンド)と、本院を中心に国内で開発された医薬品・医療機器・再生医療等製品・医療技術などのグローバル展開体制(アウトバウンド)、国際医療に関わる課題や院内教職員の教育(国際医療/グローバルヘルス研究・教育)を積極的に推進し整備する。

【運営】病院運営のための基盤強化

- 病院長のリーダーシップのもと、運営体制の見直しを図るとともに、業務の効率化を促進する。
- 防災対策及び災害医療に係る検討を行い、院内外の連携体制の強化を図る。

病院長からのご挨拶

最良の医療を皆様に提供できる、 未来に向けて持続的に 発展する病院を目指して



病院長 野々村 祝夫



大阪大学医学部附属病院の基本理念は「良質な医療を提供すると共に、医療人の育成と医療の発展に貢献する」ことであり、その基本方針は、①患者さん本位の安心・安全な全人的医療の提供、②高度な医療の実践と未来医療の開発、③社会・地域医療への貢献、④豊かな人間性を持った優れた医療人の育成です。本院の職員一同が本理念の元、この基本方針を実践すべく日々の診療に当たっています。

基本理念にある「良質な医療」というのは、患者さんが安心して受けられる安全かつ高度な最新の医療です。 私たち阪大病院のスタッフは、全ての診療科、部門において通常診療のみならず、がん診療、循環器診療、さらに は再生医療や移植医療まで全ての領域において高度な最新医療を患者さんに安全に届けるために、診療科横 断的、職種横断的なチーム医療を広く取り入れています。また、阪大病院は患者さんに最新の医療を届けるとと もに、新規医療技術や新規医薬品の開発を目指して、研究や教育にも注力しています。これらの努力の結果、 2015年に医療法上に位置づけられる「臨床研究中核病院」に指定されました。また、2018年にはがんゲノム医療がスタートし、阪大病院は「がんゲノム医療中核拠点病院」の認定を受けました。さらには、内閣府の主導する 「Alホスピタル」事業における採択拠点として診療科横断的に医療Alの実装化に取り組んでいます。医師のみな らず、看護師、薬剤師、検査技師、放射線技師などさまざまな医療職の育成を行っています。

2020年から始まった新型コロナ感染症蔓延の中で、阪大病院は重症患者受け入れ施設として、大阪府からの要請に応えつつも、手術件数を減らすことなく、高度な医療を患者さんに提供し続けられた事は、まさに医療における「最後の砦」となり地域医療に貢献できたものと大変誇らしく思います。

最後に、「Futurability 待ち遠しくなる未来へ。」というコンセプトのもと、すでに始まっている再開発事業としての統合診療棟建設について述べさせて頂きます。阪大病院が現在の吹田地区に移ってすでに30年が経ちます。老朽化や二度にわたる地震の影響、さらには昨今の医療の進歩に対応するための病院機能拡充の必要性などから、再開発が必要となりました。2021年8月に着工し、全工程42ヵ月に及ぶ大工事となります。その間、患者さんには駐車場スペースの減少や駐車場から病院玄関前の導線の悪化で大変なご迷惑をおかけいたしますが、来年5月に統合診療棟が完成することでこれまで以上にすばらしい診療体制が整うと思いますので、どうかご理解頂きたいと思います。この新棟には、外来診療施設、手術部や放射線部、臨床検査部などの中央診療施設のほか、総合周産期母子医療センター、アイセンター、未来医療開発部など病院の高度機能を支える部門が設置されます。これまで以上にすばらしい医療を提供し、未来を見据えてさらに発展・進化していく阪大病院にどうか期待して頂きたいと思います。

|03| Osaka University Hospital Osaka University Hospital

沿革

医科大学となって病院もこれに準じた。

History

1838(天保9)年	蘭学者緒方洪庵「適塾」開塾。	1924(大正13)年 10月 大阪医科大学病院を大阪医科大学附属医院と 改称した。(大阪市北区堂島浜通)	4月 大阪大学医学部附属病院分院が本院に統合された。	2000(平成12)年	4月 診療科が22診療科から6大診療科に再編成された。
			1969(昭和44)年 4月 大阪大学医療技術短期大学部設置後の学年進行に伴い看護学校及び診療エックス線技師学校が廃止された。	2001 (平成13)年	5月 肝臓移植実施施設に認定された。 1月 日本医療機能評価機構から認定を受けた。
			1970(昭和45)年 10月 本院改築第3期工事が完成した。	2004(平成16)年	4月 国立大学法人法の公布に伴い、大阪大学は国立大学法人大阪大学に改められた。
			1971 (昭和46)年 3月 給食厨房棟が完成した。	2006(平成18)年	1月 日本医療機能評価機構からVer5.0の認定を受けた。
1869(明治2)年	新政府は、小松帯刀、後藤象二郎等の提唱に	阪医科大学を移管して医学部と改称された。	1973(昭和48)年 8月 本院改築第4期工事が完成した。	2008(平成20)年	1月 大阪府からの委託事業としてドクターへリの運
	より大阪府下大組内久宝寺町(現大阪市天王 寺区上本町)に政府直轄大坂病院(緒方一族 主宰)を設置した。			2009(平成21)年	航を開始した。
1870(明治3)年	政府は当該病院を大阪府に移管し、大阪府は府立病院及び医学所を設立した。	The state of the s			1月 日本医療機能評価機構からVer6.0の認定を受けた。
1871 (明治4)年	文部省直轄となった。	1939(昭和14)年 1月 東館が増築された。		2012 (平成24)年	6月 移植法改正後初の小児(10歳未満)脳死心臓移
1872(明治5)年	文部省の学制改革に伴い、医学所及び病院が 廃止された。	1943 (昭和18) 年 4月 北区堂島浜通から福島区堂島浜通に地名変更。	1989(平成元)年 3月 吹田市山田丘において病棟等の新築工事を着工した。	2015 (平成27) 年	植を実施した。 3月 質の高い倫理審査委員会設置病院として認定
		1945(昭和20)年 6月 看護婦養成所を厚生女子部と改称した。	1993 (平成5)年 9月 中之島キャンパス (大阪市福島区)から吹田キャ	2013 (十)3,27) 4	された。
1873(明治6)年 2月	引 大阪府は西本願寺掛所に大阪府病院を開設 し、教授局を付設した。		ンパスに移転したと同時に微生物病研究所附属病院を統合した。		8月 臨床研究中核病院に認定された。 9月 オンコロジーセンター棟が完成した。 臨床検査のISO認定を受けた。
1879(明治12)年 3月	引 北区常安町に病院を新築し、移転と同時に大阪公立病院と改称、別に教授局を設けた。	1949(昭和24)年 5月 国立学校設置法の公布に従い新制大学に包括され、医学部附属医院の名称は、医学部附属病院に改められた。		2016 (平成28) 年	1月 日本医療機能評価機構から3rdG:Ver.1.1の認定を受けた。 3月 外国人患者受入れ医療機関認証制度 (JMIP) に認証された。
		1951(昭和26)年 4月 大阪大学医学部附属病院厚生女子部を大阪看護学校と改称した。			9月 ジャパン インターナショナル ホスピタルス (JIH)に推奨された。
		1952 (昭和27) 年 4月 大阪大学医学部附属診療エックス線技師学校及び 大阪大学医学部附属助産婦学校が設置された。	10月 大阪大学医療技術短期大学部を発展的に解消し、医学部保健学科が設置された。	2018 (平成30)年	3月 がんゲノム医療中核拠点病院に指定された。 11月 大阪府難病診療連携拠点病院に指定された。
1880 (明治13)年 3月	用 府立大阪病院と改称し、教授局を分離して、府 立大阪医学校を設立した。	1953 (昭和28) 年 8月 大阪大学歯学部附属病院の設置(昭和26年3月) に伴い、医学部附属病院の診療科から歯科が分離された。	1994(平成6)年 11月 特定機能病院に承認された。	2019(平成31)年	11月 小児がん連携病院に指定された。
1888(明治21)年 1月	用 府立大阪病院を府立大阪医学校に包摂し、校 名を大阪医学校と改称した。	1963(昭和38)年 4月 大阪大学看護学校を大阪大学医学部附属看護 学校と改称した。	1995 (平成7) 年 1月 1月17日午前5時46分阪神・淡路大震災発生、本院に多大の被害が生じた。 3月 ポジトロン核医学診断システム棟が完成した。	2020(令和2)年	4月 ドクターカー、DMATカーを導入した。 地域がん診療連携拠点病院(高度型)に指定された。
1893 (明治26)年 3月	大阪医学校産婆養成所が開設された。		1996(平成8)年 3月 大阪大学医療技術短期大学部が閉学された。		8月 大阪府新型コロナウイルス感染症重点医療機 関に指定された。
1898(明治31)年 4月	月 大阪医学校附属看護婦養成所が設立された。	1965 (昭和40)年 4月 大阪大学医学部附属衛生検査技師学校が設置	1997(平成9)年 3月 大阪大学医学部附属助産婦学校が閉校された。	2021(令和3)年	10月 感染症対応トリアージ施設を整備した。
1903 (明治36)年 10月	月 専門学校令により、大阪府立高等医学校と改称 された。	された。 	7月 心臓移植実施施設に認定された。 	2022(令和4)年	1月 日本医療機能評価機構から3rdG:Ver.2.0の認定を受けた。 12月 国内病院初の国際認証AAHRPPを取得した。
1915(大正4)年 10月	月 府立大阪医科大学と改称した。	12月 本院改築第2期工事が完成した。	1999 (平成11) 年 2月 膵臓移植実施施設に認定された。		
1919(大正8)年 11月	大学令により府立大阪医科大学を改組し、大阪 「原料」は、「不原味」なれた業別が	1968(昭和43)年 3月 大阪大学医療技術短期大学部設置(昭和42年6月)後	移植法施行後初の脳死心臓移植を実施した。 12月 小腸移植実施施設に認定された。	2023(令和5)年	6月 国内病院初の医療機器滅菌洗浄のISO認定を 受けた。

Osaka University Hospital |06|

病棟屋上にヘリポートが完成した。

の学年進行に伴い衛生検査技師学校が廃止された。

一職種別職員数/職員(2024年5月1日現在)

Organization Chart/Number of Staff/Faculty and Administrative Officers



皮膚科	科長(教授)	藤	本		学
形成外科	科長(教授)	久	保	盾	貴
リハビリテーション科	科長(教授)	畄	田	誠	司
■脳神経精神科	部門長(教授)	池	田		学
神経内科・脳卒中科	科長(教授)	望	月	秀	樹
神経科•精神科	科長(教授)	池	田		学
脳神経外科	科長(教授)	貴	島	晴	彦
麻酔科	科長事務取扱(准教授)	吉	田	健	史
女性・母子・泌尿生殖科	部門長(教授)	北	畠	康	司
産科	科長事務取扱(病院教授)	澤	田	健_	二郎
婦人科		澤	田	健_	二郎
小児科	科長(教授)	北	畠	康	司
泌尿器科	科長(教授)	野々	材	祝	夫
放射線科	部門長(教授)	小	JII	和	彦
放射線診断·IVR科	科長(教授)	富	山	憲	幸
放射線治療科	科長(教授)	小	Ш	和	彦
核医学診療科	科長(講師)	礒	橋	佳t	也子
救急・集中治療科	部門長(教授)	織	田		順
集中治療科	科長事務取扱(講師)	-	Щ	有約	己子
救命救急科	科長(教授)	織	田		順
中央診療施設					
管理部門]					
材料部	部長(特任教授(常勤))	高	階	雅	紀
病理部	部長(教授)	森	#	英	_
輸血部	部長(准教授)	加	藤		恒
医療情報部	部長(教授)	武	田	理	宏
感染制御部	部長(教授)	忽	那	賢	志
中央クオリティマネジメント部	部長(教授)	中	島	和	江
臨床工学部	部長(特任教授(常勤))	高	階	雅	紀
移植医療部	部長(特任准教授(常勤))	上	野	豪	久
栄養マネジメント部	部長(教授)	下	村	伊-	一郎
サプライセンター	センター長(特任教授(常勤))	高	階	雅	紀
卒後教育開発センター	センター長(教授)	渡	部	健	=
看護部キャリア開発センター	センター長	岩	崎	朋	之
高難度新規医療技術審査部	部長(教授)	新	谷		康
未承認新規医薬品等診療審査部		坂	田	泰	史
AI医療センター	センター長(教授)	西	田	幸	Ξ
臨床凍結保存センター	センター長(教授)	宮	Ш		繁
患者包括サポートセンター	センター長(教授)	_ 猪	阪	善	隆
中央診療部門]					
臨床検査部	部長(講師)	髙	原	充	佳
手術部	部長(特任教授(常勤))		階	雅	紀
放射線部	部長(教授)	富	山	憲	幸
集中治療部	部長事務取扱(講師)		山		子
リハビリテーション部	部長(教授)	岡	田田	誠	司
総合診療部	部長(教授)	山	本	浩	-
血液浄化部	部長(教授)	猪	阪	善善	隆
遺伝子診療部	部長(教授)	望	月	秀	樹
		_			生央
	部長(病院教授)	7K		7,555.7	
化学療法部	部長(病院教授)	水小	木川	_	
化学療法部放射線治療部総合周産期母子医療センター	部長(教授)	水小北	不川畠	和和康	彦司

●内視鏡センター	センター長(教授)	土	岐	祐-	一郎
●超音波検査センター	センター長(教授)	坂	田	泰	史
[\+\ \+\ \-\ \-\ \-\ \-\ \-\ \-\ \-\ \-\					
[連携診療部門]			_	_	
●脳卒中センター	センター長(教授)	望	月	秀	樹
●前立腺センター	センター長(教授)	小]]]	和	彦
●睡眠医療センター	センター長(教授)	池	田		学
●疼痛医療センター	センター長(教授)	貴	島	晴	彦
●生殖医療センター	センター長(教授)	北	畠	康	司
●ハートセンター	センター長(教授)	宮	Ш		繁
●小児医療センター	センター長(教授)	北	畠	康	司
●オンコロジーセンター	センター長(教授)	島	津	研	Ξ
●呼吸器センター	センター長(教授)	新	谷		康
●てんかんセンター	センター長(教授)	貴	島	晴	彦
●消化器センター	センター長(教授)	江		英	利
●IVRセンター	センター長(講師)	東	原	大	樹
●胎児診断治療センター	センター長(教授)	北	畠	康	司
●難病医療推進センター	センター長(教授)	坂	⊞	泰	史
●子どものこころの診療センター	センター長(教授)	池	<u> </u>	-31	学
がんゲノム医療センター	センター長(教授)	島	津	研	Ξ
●糖尿病センター	センター長(教授)	下	村	伊-	
緩和医療センター	センター長(教授)	江		英	利
●腸管不全治療センター	センター長(特任准教授(常勤))		野	豪	久
●摂食嚥下センター	センター長(教授)	猪	原	秀	典
対良県トセノダー	ピンダー茂(叙技)	狛	床	75	兴
薬剤部	部長(教授)	奥	田	真	弘
	副部長	山	本	智	也
	副部長(講師)	前	田	真-	一郎
	副部長	有	持	潤	子
	M3M 20	13	1,1	/기포J	
					
看護部	部長	岩	崎	朋	之
看護部	部長副部長	岩谷	崎浦	朋葉	之子
看護部	部長 副部長 副部長	岩谷鍋	崎 浦谷	朋葉佳	之 子 子
看護部	部長 副部長 副部長 副部長	岩谷鍋天	崎 浦谷野	朋葉佳美	之子子希
看護部	部長 副部長 副部長	岩谷鍋	崎 浦谷	朋葉佳美	之 子 子
看護部 医療技術部	部長 副部長 副部長 副部長	岩谷鍋天	崎 浦谷野	朋葉佳美	之子子希
	部長 副部長 副部長 副部長 副部長	岩谷鍋天家藤	崎 浦谷野平 埜	朋葉佳美裕浩	之子子希
	部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長	岩谷鍋天家藤橋	崎 浦谷野平 埜 田	朋 葉佳美裕 浩 剛	之 子子希子 一
	部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長	岩谷鍋天家藤橋楠	崎 浦谷野平 埜 田本	朋 葉佳美裕 浩 剛繁	之 子子希子 一 一崇
	部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長	岩谷鍋天家藤橋楠上	崎 浦谷野平 埜 田本野	朋 葉佳美裕 浩 剛繁智	之 子子希子 一 一崇浩
医療技術部	部長 副部長 副部部長 副部形長 部長 副部部長 副部部長 副部部長	岩 谷鍋天家 藤 橋楠上佐	崎 浦谷野平 埜 田本野藤	朋 葉佳美裕 浩 剛繁	之 子子希子 一 一崇浩彦
	部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副	岩谷鍋天家藤橋楠上	崎 浦谷野平 埜 田本野	朋 葉佳美裕 浩 剛繁智	之 子子希子 一 一崇浩彦 繁
医療技術部	部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副	岩 谷鍋天家 藤 橋楠上佐 宮 保	崎 浦谷野平 埜 田本野藤	朋 葉佳美裕 浩 剛繁智	之 子子希子 一 一崇浩彦 繁 毅
医療技術部	部長 副部長 副部形長 副部形長 副部形長 副部部長 副部部長 副部形長 副部形	岩 谷鍋天家 藤 橋楠上佐 宮 保武	崎 浦谷野平 埜 田本野藤 川	朋 葉佳美裕 浩 剛繁智和	之 子子希子 一 一崇浩彦 繁 毅宏
医療技術部	部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副部長 副	岩 谷鍋天家 藤 橋楠上佐 宮 保	崎 浦谷野平 埜 田本野藤 川 仙	朋 葉佳美裕 浩 剛繁智和 直	之 子子希子 一 一崇浩彦 繁 毅
医療技術部	部長 副部長 副部形長 副部形長 副部形長 副部部長 副部部長 副部形長 副部形	岩 谷鍋天家 藤 橋楠上佐 宮 保武	崎 浦谷野平 埜 田本野藤 川 仙田	朋 葉佳美裕 浩 剛繁智和 直	之 子子希子 一 一崇浩彦 繁 毅宏
医療技術部 未来医療開発部 ●未来医療センター	部長 副部長 副部形長 副部形長 部長 副部部長 副部部長 副部部長 副部形長 (教授) 副部長(教授) センター長(教授)	岩 谷鍋天家 藤 橋楠上佐 宮 保武名山	崎浦谷野平 埜 田本野藤 川 仙田井	朋 葉佳美裕 浩 剛繁智和 直理	之 子子希子 一 一崇浩彦 繁 毅宏
医療技術部 未来医療開発部 ●未来医療センター ●臨床研究センター	部長 副部長 副部部長 副部部長 部長 副部部長 副部部長 副部部長 副部部長	岩 谷鍋天家 藤 橋楠上佐 宮 保武名山	崎 浦谷野平 埜 田本野藤 川 仙田井本	朋 葉佳美裕 浩 剛繁智和 直理 洋	之 子子希子 一 一崇浩彦 繁 毅宏陽一
医療技術部 未来医療開発部 ●未来医療センター ●臨床研究センター ●データセンター ●ブータセンター ●国際医療センター	部長 副部長 副部形長 副部形長 副部形長 副部形長 副部形長 副部形長 副部形	岩 谷鍋天家 藤 橋楠上佐 宮 保武名山山	崎 浦谷野平 埜 田本野藤 川 仙田井本田	朋 葉佳美裕 浩 剛繁智和 直理 洋	之 子子希子 一 一崇浩彦 繁 毅宏陽一美研
医療技術部 未来医療開発部 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	部長 副部 長 副部 長 副部 形長 副部 部長 副部 部長 副部 部長 副部 部長 (教授) 副部 タートートの (教授) センタートートの (教授) センタートートの (教授) センタートートの (教授) センタートートの センタートの ・センタートの センターを とり を とり を り とり を とり を とり を とり とり とり とり とり とり とり とり とり とり とり とり とり	岩 谷鍋天家 藤 橋楠上佐 宮 保武名山山中 多	崎 浦谷野平 埜 田本野藤 川 仙田井本田田 田	朋 葉佳美裕 浩 剛繁智和 直理 洋知 典	之 子子希子 一 一崇浩彦 繁 毅宏陽一美研 史
医療技術部 未来医療開発部 ●未来医療センター ●臨床研究センター ● 画際医療センター ■ 国際医療センター ■ 国際医療・センター ■ 大学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	部長 副部部長 副部部長 部長 副部部長 副部部長 副部部長 副部部長 (教授) 副部長(教授) センター長(教授) センター長(特代教授) センター長(教授) センター長(教授) センター長(教授) センター長(教授) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	岩 谷鍋天家 藤 橋楠上佐 宮 保武名山山中 多中	· 崎浦谷野平 埜 田本野藤 川 仙田井本田田 田 野	朋 葉佳美裕 浩 剛繁智和 直理 洋知 典 哲	之 子子希子 一 一崇浩彦 繁 毅宏陽一美研 史 也
医療技術部 未来医療開発部 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	部長 副部部長 副部部部長 部 副部部長 副部部部長 副部部部長 副部部形長 副部部の長 (教授) 副部がり、 (教授) をした。 (教授) (教授) をした。 (教授) (教授) (教授) (教授) (教授) (教授) (教授) (教授)	岩 谷鍋天家 藤 橋楠上佐 宮 保武名山山中 多 中中	· 崎 浦谷野平 埜 田本野藤 川 仙田井本田田 田 野野	朋 葉佳美裕 浩 剛繁智和 直理 洋知 典 哲哲	之 子子希子 一 一崇浩彦 繁 毅宏陽一美研 史 也也
医療技術部 未来医療開発部 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	部長 副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副	岩 谷鍋天家 藤 橋楠上佐 宮 保武名山山中 多 中中岸	· 崎 浦谷野平 埜 田本野藤 川 仙田井本田田 田 野野本	朋 葉佳美裕 浩 剛繁智和 直理 洋知 典 哲哲和	之 子子希子 一 一崇浩彦 繁 毅宏陽一美研 史 也也久
医療技術部 未来医療開発部 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	部長 副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副	岩 谷鍋天家 藤 橋楠上佐 宮 保武名山山中 多 中中岸吉	。 崎 浦谷野平 埜 田本野藤 川 仙田井本田田 田 野野本田	朋 葉佳美裕 浩 剛繁智和 直理 洋知 典 哲哲和寛	之 子子希子 一 一崇浩彦 繁 毅宏陽一美研 史 也也久仁
医療技術部 未来医療開発部	部長 副副副副 部 副副副副 部 副副副副 部 長 部部部部 長 部部部部 長 長長長長 教 長 (女 大 ンター と マンターター と 大 と で と で と で と で と で と で と で と で と で	岩 谷鍋天家 藤 橋楠上佐 宮 保武名山山中 多 中中岸吉徳	。 崎 浦谷野平 埜 田本野藤 川 仙田井本田田 田 野野本田野	朋 葉佳美裕 浩 剛繁智和 直理 洋知 典 哲哲和寛光	之 子子希子 一 一崇浩彦 繁 毅宏陽一美研 史 也也久仁男
医療技術部 未来医療開発部 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	部長 副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副副	岩 谷鍋天家 藤 橋楠上佐 宮 保武名山山中 多 中中岸吉	。 崎 浦谷野平 埜 田本野藤 川 仙田井本田田 田 野野本田	朋 葉佳美裕 浩 剛繁智和 直理 洋知 典 哲哲和寛	之 子子希子 一 一崇浩彦 繁 毅宏陽一美研 史 也也久仁

Data

[診療科別外来患者数]

区 分	新規外来患者数 (単位:人)	外来患者延数 (単位:人)	一日平均患者数 (単位:人)
■総合診療科	352	3,368	13.9
■循環器内科	525	24,242	99.8
■腎臓内科	209	15,299	63.0
■消化器内科	926	42,432	174.6
■糖尿病・内分泌・代謝内科	418	39,234	161.5
■呼吸器内科	3 4 1	12,295	50.6
■免疫内科	433	22,169	91.2
■血液・腫瘍内科	277	17,807	73.3
■老年·高血圧内科	264	10,356	42.6
■感染症内科	5 5	446	1.8
■心臓血管外科	328	9,415	38.7
■呼吸器外科	283	8,094	33.3
■消化器外科	731	28,360	116.7
■乳腺•内分泌外科	514	17,431	71.7
■小児外科	233	5,776	23.8
■眼科	4,426	64,723	266.4
耳鼻咽喉科·頭頸部外科	1,244	27,891	114.8
■整形外科	1,400	26,046	107.2
■皮膚科	1,091	23,632	97.3
■形成外科	394	8,866	36.5
■神経内科・脳卒中科	469	18,761	77.2
■神経科・精神科	5 4 5	18,454	75.9
■脳神経外科	645	15,355	63.2
■麻酔科	208	12,375	50.9
■産科・婦人科	1,771	27,856	114.6
■小児科	768	21,851	89.9
■泌尿器科	700	21,395	88.1
■放射線診断・IVR科 ■放射線治療科 ■核医学診療科	8 5	15,047	61.9
■高度救命救急センター	117	1,093	4.5
■歯科	1,763	4,148	17.1
合 計	21,515	564,217	2,321.9

[新規外来患者数の推移]







[一日平均患者数の推移]



[病棟フロア別入院患者数]

		西病棟	į					東病棟			
	診療科	入院患者延数	一日平均 入院患者数 (単位:人)	平均在院 日数 (単位:日)	病 床 稼働率	階	診療科	入院患者延数(単位:人)	一日平均 入院患者数 (単位:人)	平均在院日数 (単位:日)	病 床 稼働率 (単位:%)
13	■脳神経精神科 (脳神経外科)	14,532	39.7	13.4	79.6	13	■感覚・皮膚・運動系科 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科)	15,343	41.9	13.9	82.4
12	■女性·母子·泌尿生殖科 (泌尿器科)	15,038	41.1	11.7	85.8	12	■内科系科 (糖尿病・内分泌・ 代謝内科/免疫内科)	16,297	44.5	12.3	84.2
11	■外科系科 (消化器外科)	15,612	42.7	13.8	85.6	11	■内科系科 (消化器内科)	16,057	43.9	12.0	88.0
10	■外科系科 (消化器外科)	16,595	45.3	14.3	85.8	10	■内科系科 (血液・腫瘍内科)	15,027	41.1	18.4	84.0
9	■外科系科 (心臓血管外科)	15,671	42.8	13.2	87.6	9	■内科系科 (循環器内科)	15,956	43.6	14.3	87.4
8	■外科系科 (乳腺・内分泌外科) ■感覚・皮膚・運動系科 (皮膚科/形成外科)	15,619	42.7	9.6	85.6	8	■脳神経精神科 (神経内科・脳卒中科) ■内科系科 (老年・高血圧内科/ 総合診療科)	15,014	41.0	16.7	82.3
7	■感覚・皮膚・運動系科 (眼科)	16,114	44.0	6.4	83.3	7	■内科系科(呼吸器内科) ■外科系科(呼吸器外科)	15,161	41.4	12.0	84.8
6	■外科系科 (小児外科)	10,674	29.2	7.8	73.1	6	■女性·母子·泌尿生殖科 (小児科)	13,649	37.3	12.3	77.9
5	■感覚・皮膚・運動系科 (整形外科)	15,179	41.5	21.0	81.5	5	■女性・母子・泌尿生殖科 (産科・婦人科)	15,324	41.9	9.3	84.0
4	■集中治療部	3,083	8.4	5.5	93.9	4	■集中治療部	5,738	15.7	6.5	78.6
3	■総合周産期 母子医療センター	10,297	28.1	9.1	74.2	3	■内科系科 (腎臓内科/内科共通) ■放射線科 ■脳神経精神科 (麻酔科)	11,066	30.2	9.7	70.5
						2	■脳神経精神科 (神経科・精神科)	10,815	29.5	34.0	57.0
						1	■高度救命 救急センター	6,713	18.3	4.7	92.0

平均在院日数 11.5 入院患者延数 一日平均入院患者数 病床稼働率 875.9 320,574 81.6 合 計 (単位:人) (単位:人) (単位:日) (単位:%)

[入院患者延数の推移]



[平均在院日数の推移]



09 Osaka University Hospital

81.6

Data

「臨床検査件数」(単位:件)

入院 3,505,250 (46.5%)

7,542,556

外来 4,037,306 (53.5%)

[手術件数] (単位:件)	
■循環器内科	92
■心臓血管外科	1,030
■呼吸器外科	438
■消化器外科	765
■乳腺・内分泌外科	416
■小児外科	479
■眼科	4,314
■耳鼻咽喉科•頭頸部外科	757
■整形外科	685
■皮膚科	220
■形成外科	581
■神経科•精神科	168
■脳神経外科	456
■麻酔科	73
■産科・婦人科	835
■泌尿器科	717
■高度救命救急センター	308
■骨髄採取(血液・腫瘍内科)	6
■その他 (消化器内科、小児科、腎臓内科、放射線治療科)	147

計

合

「画像検査患者数」(単位:人)

区分	入院患者数	外来患者数	合 計
■一般撮影	67,204	55,215	122,419
■特殊撮影	27,614	31,044	58,658
■核 医 学 検 査	1,131	4,052	5,183
合 計	95,949	90,311	186,260

[輸血検査件数] (単位:件)

■血液検査 ABO,Rh₀(D)	22,075
■その他血液型 (Rh Cc Ee 含む)	42
■不規則抗体検査 (スクリーニング検査)	19,784
■交差適合試験	12,696
■抗血小板抗体検査	126
■寒冷凝集反応	146
■直接クームス試験	394
■間接クームス試験	329
合 計	55,592

[処方枚数] (単位: 枚)

外来患者個人交付 その他(定数配置等) **36,394**(14.9%) **22,050**(9.0%) 調剤薬 注射薬 227,717 外来(院外) 469,415 (48.5%) 244,941 237,582 (50.6%)入院患者個人交付 **186,497** (76.1%) 外来(院内) 4,116-

(55.9%)

[病理業務件数]

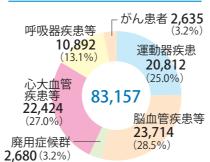
9,817 (39.2%)

12,487

(単位:件) 術中迅速診断 件数 剖検数 31 (0.1%)1,192 (4.8%) 病理組織 件数 細胞診件数 25,061 14,021

(0.9%)

[リハビリテーション実施単位数]



[地域別入院患者数] (単位:人) 兵庫県 2,100 (13.1%) 京都府 **160** (1.0%) 奈良県 **158** (1.0%) 和歌山県 **90** (0.6%) 滋賀県 60 (0.4%) 大阪府 12,970 三重県 **36** (0.2%) (81.0%) その他 433 (2.7%) ●その他の内訳 16,007 ■大阪府内の内訳 関東地方 117 中部地方 113 吹田市 2,646 • 高槻市 287 · 守口市 96 •四條畷市 ·富田林市 18 ·泉大津市 中国地方 72 豊中市 2,518 堺市 226 ・門真市 86 松原市 26 •三島郡 17 • 南河内郡 四国地方 66 · 藤井寺市 15 茨木市 2,159 ・東大阪市 221 大東市 54 25 · 泉南市 •泉北郡 九州地方 54 泉南郡 箕面市 1,334 豊能郡 204 和泉市 38 •羽曳野市 15 北海道 6

25

21

・大阪狭山市 12

12

・高石市

阪南市

[治験件数] (単位:件)

·枚方市

・八尾市

•寝屋川市 157

159

105

大阪市 1,318

摂津市 402

576

池田市

		総件数	総症例数
	新規	74	377
■医薬品	継続	293	1,022
	小計	367	1,399
	新規	4	12
■医療機器	継続	28	274
	小計	32	286
総計		*399	*1,685

※医師主導治験34件、465症例含む ※医療機器に再生医療等製品治験16件、43症例含む

・岸和田市

·泉佐野市 28

交野市

32

31

•柏原市

貝塚市

·河内長野市 24

[移植件数] (単位:件)

①臓器移植件数 ※[]内は、脳死、心停止下臓器移植件数

(21.6%) 腎臓移植 37[2] 74 肺移植 7[7] (50.0%)(9.5%)

心臓移植 16[16]

肝臓移植 11[3]

膵腎同時移植 3[3](4.0%)

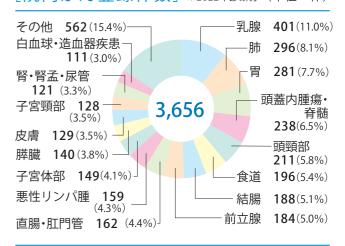
(14.9%) ②造血幹細胞移植件数 成人 小児 区分 ■血縁者間移植 2 10 21 ■非血縁者間移植 3 14 骨髄バンク 1 7 ・臍帯血 2 7 ■自家移植 4 計 合 38 9

[院内がん登録件数] ※2022年診断分(単位:件)

東北地方

外国

3



[入院、外来抗がん剤調製件数] (単位: 件)



 [ドクターヘリ出動件数]	132件
[分娩件数]	436件
[血液浄化療法施行件数]	4,619件

Osaka University Hospital | 12 | 11 Osaka University Hospital

医療機関の承認・指定状況等 (2024年5月1日現在)

Legal Authorization of Medical Services

「医療機関の承認・指定]

- ●臨床修練指定病院
- ●医療法第7条第1項による開設許可(承認)
- ●健康保健法による(特定承認)保険医療機関
- ●生活保護法による医療機関
- ●労働者災害補償保険法による医療機関
- ●原爆医療法による一般医療法
- ●原爆医療法による認定医療法
- ●母子保健法による妊婦乳児健康診査
- ●母子保健法による養育医療
- 戦傷病者特別援護法による厚生医療
- 特定機能病院の名称の使用承認
- ●エイズ治療拠点病院
- ●大阪府災害拠点病院
- ●感染症予防法による指定届出機関(基幹定点)
- ●大阪府三次救急医療機関
- ●大阪府肝炎専門医療機関
- ●覚せい剤取締法による国の開設する覚せい剤施用機関●大阪府外国人患者受入れ拠点医療機関
- ●障害者総合支援法による更生医療
- ●障害者総合支援法による育成医療
- ●結核指定医療機関

- ●障害者総合支援法による精神通院
- ●入管難民法による出入国管理及び難民認定法に基づく指定医
- ●大阪府総合周産期母子医療センター指定
- ●医療観察法による指定通院
- ●大阪府肝疾患診療連携拠点病院
- ●児童福祉法第19条の9第1項の規定による指定小児慢性特定疾病医療機関
- ●難病の患者に対する医療等に関する法律第14条第1項の規定による指定医療機関
- ●臨床教授等指定病院
- ●医療法上の臨床研究中核病院
- ●がんゲノム医療中核拠点病院
- ●大阪府難病診療連携拠点病院
- ●外国人患者受入れ医療機関
- ●小児がん連携病院
- ●大阪府小児がん拠点病院
- ●地域がん診療連携拠点病院
- ●大阪府てんかん診療拠点機関
- ●大阪府がん患者妊よう性温存治療実施医療機関
- ●大阪府小児中核病院

※太字は大阪府による承認指定

「先進医療」

- ●術前のゲムシタビン静脈内投与及びナブーパクリタキセル静脈内投与の併用療法 切除可能な膵臓がん(七十歳以上八十歳未満の患者に係るものに限る。)
- ●着床前胚異数性検査

不妊症(卵管性不妊、男性不妊、機能性不妊又は一般不妊治療が無効であるものであって、これまで反復して着床若しくは妊娠に至っていない 患者若しくは流産若しくは死産の既往歴を有する患者に係るもの又は患者若しくはその配偶者 (届出をしていないが、事実上婚姻関係と同様の事情にある者を含む)が、染色体構造異常を持つことが確認されているものに限る。)

- ●流死産検体を用いた遺伝子検査
- ●二段階肧移植術
- ●タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養
- ●子宮内膜受容能検査1
- ●テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)
- ●術後のアスピリン経口投与療法

下部直腸を除く大腸がん(ステージが川期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)

●膜構造を用いた生理学的精子選択術

経理状況/未来医療の推進

Finance/Translational Research

「収入と支出」(2023年度)※受託研究等外部資金及び施設費は除く

収入 (単位:千円)

区分	金額
運営費交付金	3,806,781
附属病院収入	48,271,160
その他収入	1,638,563
合 計	53,716,503

支出 (単位: 千円)

区分	金	額
人件費	18,074	,203
医療費	24,425	,317
債務償還経費	1,088	,191
業務費	9,029	,963
再開発積立金	968	,830
借入金返済	130	,000
合 計	53,716	,503

「受託研究等外部資金及び施設費](2023年度)

外部資金受入額 (単位: fm)

区分		金額
	受託研究	419,176
受託研究等収入	治験	708,965
	共同研究	126,023
	受託実習生	10,847
受託事業等収入	病院研修生	484
	その他	15,537
	共同事業	6,500
寄附金収入		73,267
補助金等収入		1,123,640
合 計		2,484,439

施設費 (単位: 千円)

X	分		金	額
施設整備		再開発事業	5,508,	935
合	計		5,508,	935

トランスレーショナルリサーチの推進

新しい医療を開発し、臨床の場で試用してその有効性と安全性を確認し、 日常医療へ応用していくトランスレーショナルリサーチ(TR)を実践推進していきます。 ■TRの実施件数 (2023年度)

●新規TRシーズ支援件数:46件

●臨床研究新規許可件数:2件 (内2件医師主導治験)

診療と教育・研究のグローバル化

本院では2013年4月に、外国人診療や外国人医療研修に関連する様々な業務やコーディネートを一貫して行う部署として、 国際医療センターを設置し、各部署と連携しながら診療・教育・研究のグローバル化を目指して下記の事業に取り組んでいます。

国際診療支援基盤整備

●海外からの患者受入れ体制の整備 ●海外からの医療研修受入れの推進 ●国際医療ネットワーク形成

|アウトバウンド

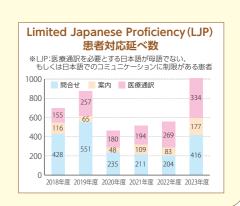
- ●世界市場への日本の医薬品・医療機器の展開
- ●国際共同治験・共同研究の推進 ●日本の医療システムの海外進出

国際医療教育・研究

●大阪大学内外の研究・教育施設との協力による国際医療教育・研究の推進

国際機能評価

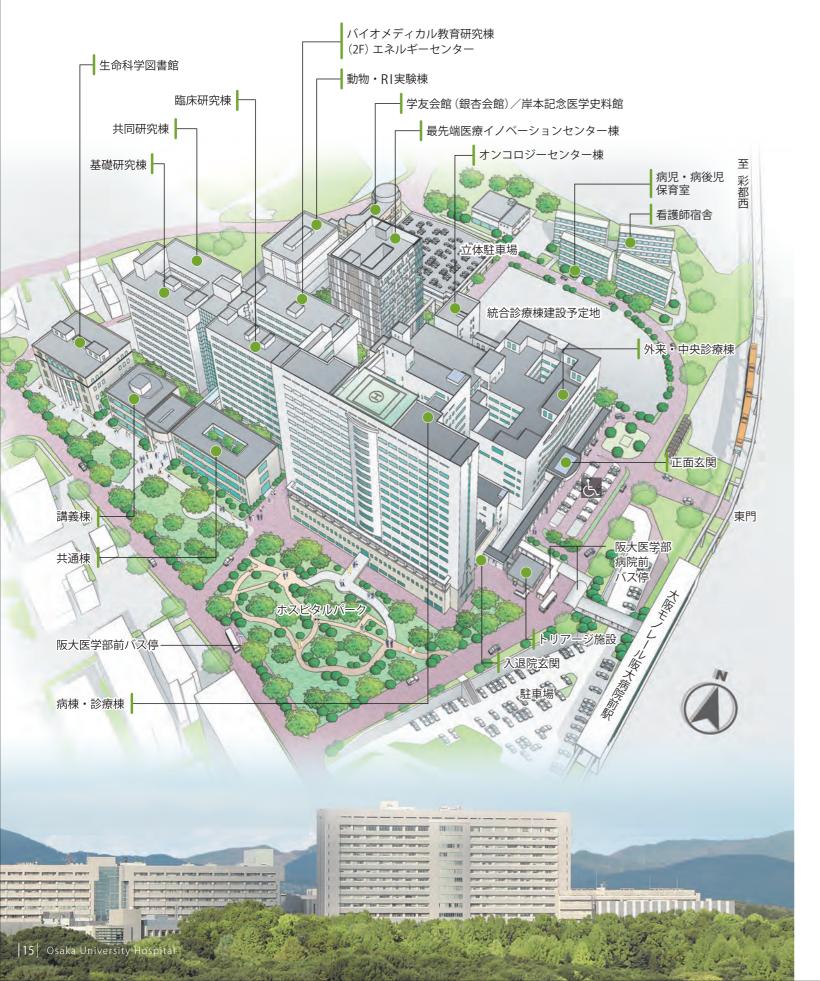
- ●外国人患者受入れ医療機関認証制度(JMIP)認証(2022年認証更新)
- ●ジャパン インターナショナル ホスピタルズ (JIH) に推奨
- ●大阪府外国人患者受入れ拠点医療機関に選定(2019年10月)
- ●国際認証AAHRPP取得(2022年12月)



13 Osaka University Hospital Osaka University Hospital | 14 |

構内建物配置図/階別配置図・病床数

Buildings Layout/Building Directory and Number of Beds











[病棟・診療棟(病床数 1,086床) ※フェーズ [病床(10床)を含む]

	西病棟		東病棟	
14 階	レストラン、休憩所、会議室、中央クオリティマネジメン	ノト部		
13 階	脳神経外科	50床	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	51床
12 階	[前立腺センター]泌尿器科	48 床	糖尿病・内分泌・代謝内科、免疫内科	53 床
11 階	[消化器センター]消化器外科	50 床	[消化器センター] 消化器内科	50 床
10 階	[消化器センター]消化器外科	53 床	血液・腫瘍内科	49 床
9階	[ハートセンター] 心臓血管外科、CVCU	49 床	[ハートセンター] 循環器内科、CCU	50 床
8階	乳腺・内分泌外科、皮膚科、形成外科	50 床	神経内科・脳卒中科、老年・高血圧内科、総合診療科	50 床
7階	眼科	53 床	[呼吸器センター] 呼吸器内科、呼吸器外科	49 床
6階	[小児医療センター] 小児外科	40 床	[小児医療センター] 小児科	48 床
5 階	整形外科	51 床	[生殖医療センター] 産科・婦人科	50 床
4階	集中治療部 (ICU)	9床	集中治療部(ICU)	20 床
3 階	[総合周産期母子医療センター] 周産期病床、MFICU、NICU、GCU	38床	腎臓内科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、内科共通 [疼痛医療センター] 麻酔科	43 床
2階	看護部、血液浄化部		[睡眠医療センター] 神経科・精神科	52 床
1階	リハビリテーション部、郵便局、コンビニエンスストア、 理容室、美容室、専門書店等	食堂	高度救命救急センター 医療情報部、入退院センター、守衛室、防災センター	20 床
B1 階	栄養管理室、厨房		薬剤部、医事課事務室	

「从本•山中診療植]

	中央診療施設等	外来	その他
4階	手術部、移植医療部、 感染制御部、 卒後教育開発センター、 看護部キャリア開発センター		ボランティア控室、 院内学級職員室、 シミュレーション室、 医事課事務室、 フェーズ I 病床 10 床、 細胞培養調製施設(CPC)
3 階	材料部、病理部、輸血部、 臨床工学部	泌尿器科、産科・婦人科、神経科・精神科、外科、 耳鼻咽喉科・頭頸部外科、 麻酔科術前外来、 皮膚科、形成外科	患者図書コーナー、 治験コーナー・臨床研究相談窓口、 入院支援室1、2 相談室1、2、集合入院支援室
2階	臨床検査部、 内視鏡センター	内科2階西、内科2階東、 糖尿病ケア・看護外来、 麻酔科、小児科、小児外科、 脳神経外科	授乳室 入院支援室3、4
1階	放射線部、 患者包括サポートセンター	眼科、整形外科、 リハビリテーション科、 内科1階・総合診療外来、 禁煙外来、漢方外来、治験専門外来、 補完医療外来、国際医療外来、 感染制御、感染症内科、 セカンドオピニオン外来	総合案内、外来受付カウンター、 予約変更センター、ATM、 診断書等受付窓口、 薬剤・在宅療養器材交付窓口、 院外処方せんFAX送信コーナー、 患者相談室、栄養相談室、 医事課事務室、コインロッカー
B1 階	放射線部、遺伝子診療部、放射線治療部	放射線治療科、 放射線診断・IVR科、 核医学診療科	歯科治療室、中央病歴室、 時間外薬剤交付窓口

[医学部・同附属病院共通棟]

3 階	医学部長室、病院長室、事務部長室 会議室等
2 階	病院 総務課事務室 病院 管理課事務室
1階	病院 管理課事務室 医学部 事務室

「オンコロジーセンター棟〕

5 階	キャンサーボードホール がんゲノム医療センター
4階	がん相談支援センター 薬剤部(オンコロジーセンター室)
3 階	化学療法室
2 階	化学療法室
1階	受付 診察室 採血・検査室
L 階	スタッフエリア 設備室

[最先端医療イノベーションセンター棟]

未来医療開発部 病院 教育研究支援課事務室

研究拠点(地上9階・地下1階建て)

※経済産業省の平成22年度先端技術実証・評価設備 整備費補助金(技術の橋渡し拠点事業)により、大 阪大学医学系研究科に設立された、産学官連携の

2023年度(2023年4月~2024年3月)の動き

Topics

Topics 1

救急・集中治療部門(救命救急科・集中治療科)の新設

新興感染症の拡大や大規模災害の多発などにより、急性重症患者に対応する医療体制への社会的要請が高まっています。

救命救急科は高度救命救急センターにおいて外傷や熱傷、敗血症、産科 救急などのうち、生命に関わる状況の最重症患者に対して全力で診察・治療 に当たります。集中治療科は集中治療部において、本院で心臓血管外科手 術や移植手術などの大きな手術を受けたり、呼吸不全に陥ったりした患者さ んを診療しています。

両科の開設にあたり「救急・集中治療部門」を新たに作り、重症診療と高機能病床で密な連携を図っています。高度な医療の提供と人材育成につとめて参ります。



Topics 2

プレコン(妊娠前相談)外来の開設

産科・婦人科では2023年7月より妊娠前の女性やカップルを対象にした「プレコン外来」を開設しています。プレコンとは受胎前の健康管理を意味する「プレコンセプションケア」の略です。何らかの疾患で通院中の患者さんや、先天性や遺伝性疾患がある患者さんが、将来的に安心して妊娠・出産を迎えられ、出産後も健康的な生活を送ることができるように、産婦人科医が最新の知見について情報提供しています。完全予約制で自費診療にはなりますが、本院通院中の女性だけでなく、今後は他院からの紹介にも対応できるようカウンセリング体制を整えています。



●木村正教授(当時、右)と岡田愛子助教(左)

Topics 3

術後疼痛管理チームが始動

全身麻酔で手術を受けた患者さんの術後の痛みを専門にコントロールする「術後疼痛管理チーム」が2023年5月に発足、本格的な活動をスタートしました。麻酔科医を中心に疼痛管理の専門知識を持った看護師、薬剤師がチームを組んで、全身麻酔を伴う手術後の患者さんの痛みの軽減、合併症予防、生活の質向上などを目指して疼痛管理に当たっています。活動はまだ一部の病棟に限られていますが、2023年度は525名の術後回診を実施しました。今後も実績を積み上げて、早期に全病棟で実施できるよう体制整備を進めていきます。



●術後疼痛管理チームのメンバー

大阪大学医学部附属病院への ご客 けのお原しい 大阪大学医学部附属病院では、医学教育、学術研究や教育・研修の充実、および病院運営に対し、企業や個人の皆様方から広くご寄附を受け入れ、その成果を通じて地域連携支援や社会貢献に役立てています。 本院は、患者本位の安心・安全な全人的医療の提供、高度な医療の実践と未来医療の開発、社会・地域医療への貢献、豊かな人間性を持った優れた医療人の育成を基本方針としています。 本院の運営をはじめ教育研究の充実発展のために、温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご寄附の使い方

大阪大学医学部附属病院へのご寄附は、教育研究に必要な機器・材料の購入や医療従事者の育成及び病院運営などに活用させていただきます。

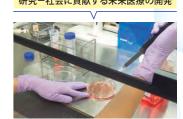
診療-安全で質の高い医療の提供







教育-優れた医療人の育成



ご寄附をいただいた方への顕彰

大阪大学医学部附属病院へのご寄附をいただいた皆様には、

- ●大阪大学総長名の感謝状を贈呈させていただきます。
- ●ご芳名を医学部附属病院のホームページに掲載させていただきます。
- ●さらに、累計50万円以上のご寄附をいただいた方へ
- ・ご芳名をプレート(※1)に記し、医学部附属病院の外来エントランスに 掲示させていただきます。
- 500万円以上のご寄附をいただいた個人のご寄附者様にご意向を確認の上、文部科学省に紺綬褒章を申請させていただきます。
- 阪大病院ニュースを1年間(4回)送付させていただきます。
 (※1)プラチナ:5,000万円以上ゴールド:500万円以上シルバー:100万円以上プロンズ:50万円以上

ご寄附の税制上の優遇措置

ご寄附いただいた寄附金には、税制上の優遇措置があります。

寄附者が会社などの場合

ご寄附の全額が損金に算入されます

寄附者が個人の場合

その年中にご寄附いただいた合計額(総所得額の40%を限度)から2千円を差し引いた額について、所得控除を受けることができます

ご寄附の受け入れの制限

次に該当するご寄附は、受け入れることができません。

ご寄附を受け入れることによって財政負担が伴うもの

(ご寄附を受け入れる場合に次の条件が附されているもの)

- ●ご寄附により取得した財産を無償で寄附者に譲渡すること
- ○ご寄附による学術研究の結果得られた知的財産などを 寄附者に譲与し、または無償で使用させること
- ●ご寄附について、寄附者が会計検査を行うこととされていること
- ●寄附申込み後、寄附者の意思によりご寄附の全部または 一部を取り消すことができること

ご寄附の申込み手続き

大阪大学医学部附属病院へのご寄附についてご検 討いただける方は、QRコードをご参照いただくか、下 記問い合わせ先までご連絡ください。お手続きにつ いて、ご案内させていただきます。





個別の診療科へのご寄附についても 下記問い合わせ先までご連絡ください。





大阪大学医学部附属病院 教育研究支援課総括係

〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15 TEL.06-6210-8277 https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp/contribution/index.html

Osaka University Hospital Osaka University Hospital